

東京ネクタイ協同組合 組合員

アイネックス/アール・ビー彩光/池田商店/
今井/栄光堂/協織 東京営業所/クルス/
伸和/スズキトミー/成和/高木/田中山泉
/田村商店/チューン・インターナショナル
/千代田ネクタイ/永島服飾/西陣ネクタイ
東京支店/萩原繊維工業/パブロ・クリエー
ション/堀越ネクタイ/マツダ/松本/マルゴ
/三松商事/吉山/和商クラバットハウス

※各社の「株式会社」は省略しました

ネクタイ業界のみならず、メンズファッション業界に大打撃を与えた「クールビズ」の「クール」は、当初「かっこいい」のクールでもありました。暑い夏を恰好よく、涼しく過ごそうという趣旨であったはずが、あるときから単なるノーネクタイ・ノー上着運動ようになってしまい、非常に違和感があります。私は「『クールドレスアップ』と言おう」と提唱しています。自分だけが涼しく感じれば良いということではなく、夏の素材や涼しげなブルー系のネクタイを締めることで清涼感を相手に伝える。それがビジネスシーンのクールビズではないかと思うのです。

ネクタイの色や柄にも意味があります。私はどんなネクタイを買ったらいいかと聞かれたときは、「まず、ネイビーのソリッドタイを選んでください」と答えます。ネイビーは清潔、精練なイメージがあり、着けている人を凛々しく見せてくれます。私が『MEN'S CLUB』から『GQ JAPAN』に転職するときに、ある先輩が「山本さんはこれからファッションの最前線に行くのだから、ここぞという勝負時にはこのネクタイをしてください」とネイビーのソリッドタイを贈ってくれました。私は戦う刀をもらったような気がして勇気がわきました。反対に部下に忠告するときは寒色系のネクタイだと相手に与える印象が強すぎるので、暖色系のプリントタイなどを選ぶことで威圧感を軽減することができます。

ネクタイの販売の仕方にも工夫が必要です。今のビジネスマンはベネフィットを求めています。10月1日は「ネクタイの日」ということですが、年度の後半が始まる日でもありますし、新しいネクタイで気を引き締めてスタートしようという、とて

10月1日は「ネクタイの日」 自分のための1本を

もいい「理由」がある日です。ネクタイは贈り物としての需要が言われがちですが、10月1日は「自分のためにネクタイを買う日」にしてはどうでしょうか。同じ意味で年度始めの4月1日も「ネクタイの日」にして、もっとこの日を盛り上げたいと思います。たとえば「ネクタイの日3本セット」なんて、面白い仕掛けだと思いませんか。基本のネイビー、暖色系、ストライプをセットにして、「このネクタイはこんなシーンに」という着用のTPO解説を付けて売ります。私たちメンズファッション誌も情報を発信して応援します。

いままでスーツを着ていた人が、リタイアしたからといって急にニットやブルゾンになったりすると、着慣れないために恰好悪いおじさんになってしまうことがあります。例えば同窓会に出席するときは、週末にふさわしいジャケットやちょっと遊び心のある素材や柄のネクタイを選んでみてください。きっと、同窓生に「やるなあ」と思われるはずですよ。

スコット・シューマンというアメリカの有名な写真家は、日本のビジネスマンは世界で一番おしゃれだといいます。クラシックな英国調の堅い素材にタイトなイタリアのシルエット、でも全体はアメリカンな雰囲気、そんなスーツスタイルをしているのは日本人しかいないというのです。それぞれのいいところをうまくミックスした着こなしをしているのです。それは日本のファッション業界には非常に優秀な作り手やバイヤー、そしてショップスタッフがいて、日本の男たちに教えてきた成果だと思えます。だから、もっと自信を持ってスーツを着てネクタイをしてほしいですね。(談)



アエラストイルマガジン編集長

山本晃弘 (やまもとてるひろ)

『MEN'S CLUB』『GQ JAPAN』などを経て、2008年、編集長として『アエラストイルマガジン』をスタートさせる。新聞やWEBなどでコラムを執筆する傍ら、幅広いブランドのカタログや動画コンテンツの制作を行う。トークイベントで、ビジネスマンや就活生にスーツの着こなしを指南するアドバイザーとしても活動中。著書に『仕事ができる人は、小さめのスーツを着ている。』